目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第３７号　2007年 12月　発行人：加藤 栄護　編集長：服部 尚彦　事務局長：吉田 博行

事務局：〒153-0053　目黒区五本木2-47-5　Tel 03-3713-2096

『母校の創立125周年を祝う』

目黒稲門会会長　加藤榮護（昭和31年 理工）

創立125周年をこの年に迎え、感慨新たなものがあります。戦後のこの62年間、わが国は世界に類を見ない経済復興を遂げました。

卒業生の活躍を見れば、社会のあらゆる分野に早稲田大学は素晴らしい人材を輩出し、世界に誇れる学園に成長したものと思います。

わが目黒稲門会も設立以来8年を経過し会員も160名を越え、活発な活動をしていますが、多くの人がこの地域稲門会を第二の人生の交流の場として活用しています。小生は目黒稲門会の第二代目の会長に選出され、楽しい毎日を過ごしています。

私自身は昭和27年から、大学院も含めて6年間早稲田に学びましたが、早稲田の何と言っても自由な雰囲気が一番有難かったと感謝しています。

昭和30年代の初期、データ通信と言われる分野に未だ人々が取り組み始める前に、稲門出身者の多くが果敢に身を投じたことは小生の誇りとするものであります。

政財界を問わず危機に当たって自ら身を投じる姿勢は我が稲門の誇りであります。そして、早稲田大学無しには日本国は成り立たないといっても過言ではないと思います。

目黒稲門会相談役 樋口定廣（昭和17年 専法）

平成10年6月、それは学窓を出て57星霜だった。大学校友会より封書が来た。開けて見ると目黒稲門会の設立に貴殿を選んだとある。そして大学が取り組む課題が山積みしているし、早稲田は一匹狼的OBが多い特徴がある。これからは良い意味での人的ネットワークを組む事が必要の為云々・・目黒稲門会を設立に協力有り哉の諾否の依頼だった。賛成承諾の連絡をしたところ、翌9月25日大隈会館N棟2階に目黒在住同窓の21名前後が集まった。校友課司会者口元氏は趣旨の挨拶程度で退席し、自由討論に入った。勿論初顔の集まり、その中に10分遅れて入ってきたA氏が中々の者で、校友同窓の既知も多く、大学の現状認識も把握しており、下目黒住区センター、10月23日を設立準備委員会と決め、A氏に一切を任せる事にした。そのA氏こそ誰あろうご存知の土川俊雄氏であった。当日少人数の世話人会のメンバーを決め、会則その他を討議・整理し、委員会で決定と世話人会を繰り返し、会則、役員を決定し、かつての都副知事・首都道路公団理事長、東京競馬株式会社社長の真仁田氏を目黒稲門会のリーダに最適と全員一致決定した。12月16日、日本橋の本社に真仁田氏を訪ね、今は亡き中沢氏を含む13人にて懇願説得し承諾を得た。そして平成11年1月30日目黒区三田のウェスティンホテルで、今は亡き大隈信幸顧問を含めて127名の中76名の会員と13名の来賓が集い目黒稲門会の歴史が華々しくスタートした。

そして早速麻雀部会、旅行部会、囲碁部会、グルメ部会、ゴルフ部会を立ち上げ、活動を始めた。また、会に対して希望、進言、不満、何でも有りの食い放題・飲み放題の三金会が設立され、10月にはカラオケ部会、11月には青少年部会（現目黒稲門・若手会）、ダンス部会（現休会）、平成12年にはパソコン部会（現休会）、平成15年には美術・歴史鑑賞部会も設立された。同窓生の嗜好の変化と共に活動も変化しているが、時代の流れで当然の事と云えよう。但し、日本の社会情勢は目を覆う事ばかり、原点は教育にあると思う、創立125周年を寿ぐと共に、この期に日本人とて孝行・友愛・惻隠の情・祖国愛を持ちたいものである。歩いて、大声で歌って、笑って、大隈候の125歳は無理だが、健康で在りたいものである。祝創立125周年を期に曽祖父大山の峰の岩根に埋めた大和魂を、私は和光同塵の心をもって早稲田の杜に埋めたい。

目黒稲門会会員 高橋和彦（昭和58年 文）

私が、初めて早稲田の地を訪れたのは、1975年1月だった。3月には、現在のリーガロイヤルホテルが建つあたりだろうか、旧22号館で、入学説明会があった。ちなみに、この建物には就職課があって、その後に辛い想い出が待ち構えていようとは、知る由もなかった。

以来、8年間、この地に通うことになるのであるが、留年すれば、百周年を迎えられるという冗談が本当になってしまい、百期生となって卒業した。それにしても、枚挙に暇がない想い出も、そのほとんどが辛く切ないことばかりなのは私だけだろうか。

現在、ジャーナリズムに身を置く者として、日々、精進を重ねているとはいえ、本学の現在の有り様には、どうしても厳しい眼差しを向けざるをえない。となると、周年の祝辞どころではなくなってしまうが、本学の将来の鍵は、その全ての関係者が、常に『理想』を追い求め続けられるかどうかにかかっているような気がしてならない。校歌の中で、一貫して詩われている『理想』を持ち続けられるかだ。現実主義の慶應に対して、ロマン主義の早稲田が、大衆の支持を得られるに違いないと信じるのである。

『六大学野球・早稲田3連覇達成！！』

平成19年秋、早稲田は早慶最終戦で7対0と慶応を破り、春に続いて3連覇、早慶戦200勝の偉業を達成し、創立125周年に華を添えた。最終戦で早稲田は全員安打、毎回安打で圧倒し、斉藤投手は15奪三振、初完封を成し遂げた。

早稲田が燃えた。目黒稲門会でも早慶2回戦の瀬戸際戦の内野フライで思わず出した「取るな！」「落せ！」の何れを本当は発したのか、品格は何れが勝っているかなどの議論を肴に、夜まで勝利に心地よく酔いしれた。　（服部　記）

2008年　新年会開催のご案内

2008年　新年会を1月12日（土）に「こまばエミナース」において下記の通り開催いたします。

会員ならびにご家族の皆様の積極的なご参加をお願いいたします。　また、毎回ご案内しておりますが、年会費を負担されながら当会の活動の何れにも出席されていない会員の方々には、思い切って参加される良い機会と思われますので是非ご参加下さいますようお待ちしております。

なお、第一部講演会では、当会会員の岩佐幸子さんにお願いして「洋画の翻訳現場の楽しい裏話・・此処だけの話！」との演題で通常では伺い知る事の出来ない興味あるお話を頂くことと致しました。

岩佐さんは、昭和35年の法学部卒、ご存知の通り本年3月発行の当会会報第34号に特別寄稿を寄せて頂き、「外画の吹き替え翻訳32年」と題してその苦労話や失敗談、成功談、楽しさ等々をご紹介されておりますが、今回は其れを上回る、取って置きの裏話等が伺えるものと期待されます。

記

目黒稲門会　2008年　新年会

1. 日時：2008年1月12日（土）
　　受付開始15時30分
2. 場所：こまばエミナース、目黒区大橋2-19-5
　　（電）03-3485-1411
　井の頭線　駒場東大前駅　下北沢寄り改札口7分
3. プログラム：
　（1）講演会（16時～17時）
　　講師：岩佐幸子氏
　　演題：「洋画の翻訳現場の楽しい裏話
　　・・・此処だけの話！」
　（2）懇親会（17時～19時）
4. 会費：8,000円（同伴家族　5,000円）
　　当日会場にてお支払い下さい。

☆当日送迎バス（会場まで以下の時刻表でマイクロ・バスを運行致しますので御利用下さい。

①目黒駅発　　15時10分
　JR東口、目黒通り・みずほ銀行前付近
②中目黒駅発　15時20分
　東横線東口、山手通り・ツタヤ前付近

☆同封の返信用はがきを12月11日（日）迄に御返送下さい。なお、送迎バスをご利用の方ははがきに上記乗車場所希望番号を明記して下さい。

（島田　記）

各部会からの案内・報告

囲碁部会

『第46回オール・早慶フェスタ』

平成19年10月28日（日）に早稲田大学創立125周年を記念し、三田会と稲門会の囲碁愛好家を加え、「125人対局」という一大イベントが早稲田中・高校体育館で実現した。白井克彦総長は両校の創設者である福沢諭吉先生も大隈老候も囲碁が大好きとのことと述べている。大会参加者は第一に囲碁部OB、現役、教職員50人、第二に稲門会・三田会会員75人、第三にゲストとして梅沢由香里女流棋聖（慶応）―世界戦日本代表として中国遠征で欠席―、青葉かおり四段（早稲田）、更に慶応囲碁部顧問大竹九段によるユーモア溢れる大盤解説が行われた。

目黒囲碁部会から5人が参加し、桑野祐光氏が早稲田囲碁部主将の下坂美織さんから指導を受けるなど大変楽しい一日を送ることが出来た。女性棋士青葉かおり四段は17歳でプロ入りしたが、東京に出てみたい、早稲田大学に行きたいという思いで、実力で入学卒業した色白美貌棋士である。今後の御活躍を祈りたい。

第46回大会は慶応の勝利となった。

囲碁部会長　保井　正

美術・歴史鑑賞部会

「知るを楽しむ」美術・歴史鑑賞部会次回の催しは、東京国立博物館で開催中の特別展「大徳川展」を鑑賞いたします。

「大徳川展」は徳川将軍家、尾張・紀伊・水戸の徳川御三家、さらに久能山・日光・紀州の東照宮、また寛永寺や増上寺に伝えられた宝物を集めた展示会で、その内容はご満足頂ける内容と思います。

展覧会は、三章に分かれ構成されています。

第1章　「将軍の威光」では、武器武具、家康の愛用品、歴史資料など将軍の権威権力の実像が紹介されます。

第2章　「格式の美」では、王朝絵画の至宝「源氏物語絵巻」や名物茶道具、能装束、絵画、書蹟など、武家の美意識を代表するものが揃います。

第3章　「姫君のみやび」では「国宝　初音蒔絵調度」に代表される姫君の華麗なる婚礼調度と絢爛たる衣装などが楽しめます。

初冬の一日、華麗なる江戸文化の鑑賞を楽しみましょう。

日時：12月1日（土）午前10時　東京国立博物館入場券販売所前集合

鑑賞：10時～12時（ゆっくり鑑賞）

昼食：近くの店で簡単に会食して解散します。

会費：入場料（1500円）＋　昼食代実費

なお、参加ご希望の方はFAX（03-3418-8413）で氏名明記の上、八幡和三郎宛に申し込み願います。

美術・歴史鑑賞部会長　八幡和三郎

旅行部会

『旅行部会3年の記録』

過去3年間に実施してきました旅行記録をお知らせ致します。今後の会員の皆様からのご要望の参考にしていただければと考えます。

平成16年4月　春の箱根路を訪ねる旅
　　目黒区箱根保養所宿泊
16年12月　熱海MOA美術館と伊東温泉
　　ホテル暖香園宿泊
17年6月　愛知万博見学と伊勢神宮
　　名古屋東急イン宿泊
18年4月　水沢と平泉の旅
　　厳美渓　ホテル渓泉閣宿泊
18年11月　茨城の旅　水戸大洗、大子の滝
　　茨交大洗ホテル宿泊
19年6月　新緑の北長野　小布施と善光寺
　　渋温泉　角屋ホテル宿泊
19年11月　義理と人情の吉良と館山寺
　　ホテル開華亭　宿泊

来年5月は石川県金沢を予定します。乞うご期待

旅行部会長　井村正陽

麻雀部会

(1) 三区連合親善麻雀大会

渋谷の麻雀クラブ「スリーハンドレッド」に於いて8月25日（土）、第18回三区（目黒・渋谷・世田谷）連合親善麻雀大会が世田谷稲門会主催により開催されました。半チャン4回の親睦を深めた競技の結果、優勝したのは目黒の横山副会長でした。その他目黒は本田氏が4位、ラッキー7賞が松尾と健闘しました。

(2) 定例麻雀大会

9月30日（日）、武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて第31回定例麻雀大会が開催されました。和気藹々の競技の結果、優勝したのは吉川氏で、雀荘のママから差し入れのウイスキーも副賞として獲得しました。また準優勝は副会長の井村氏、三位は本田氏でした。

(3) 今後の大会予定

12月16日（日）12：30より、恒例の年末定例麻雀大会を武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて開催予定しております。（終了後は近くの中華料理店「井門」にて忘年会）

また新年第一回の定例麻雀大会は2月17日（日）を予定しております。皆様奮ってご参加ください。

麻雀部会長　松尾 洋一

よん月会

『100回目開催にあたって』

今般、「よん月会」100回目開催にあたり、この機会に本会の出来た経緯、歴史などを簡単にご報告申し上げたいと思います。

皆様既にご存知の如く、当稲門会は大学側の要請により平成10年10月に設立の為の準備会の発足、平成11年1月設立総会を経て現在に至っております。当初は全員が始めてお会いした為に堅苦しい雰囲気でした。その後、何回か会合を重ね、終了後食事会等を経て緊張がほぐれてきました。しかし、もう一歩進めて月一回位飲んで食べて胸襟を開き、会の発展の為に腹蔵無く話せる会を開いたらどうだとの樋口、阿部、浅海ら諸先輩の方々の話があり、ついてはお前が連絡係りをせいとのご指示で会が始まった次第です。

平成11年5月の第一回を皮切りに77回、ご主人の病で店が休業するまで「三金会」「三土会」の名称で「鮨八」で開催、78回より90回迄を「松喜」で開催、91回以降現在まで「よん月会」の名称で「アッパレ」で開催100回に至りました。ここ迄続いてきた事を振り返り改めて真仁田初代会長、加藤現会長、会員の皆様、又開催させて頂いたお店の皆様に大変感謝いたしますと共に今後もご協力を頂きたく御願い申し上げます。

よん月会幹事　土川俊雄

グルメ部会

前号会報でご報告したとおり9月5日（水）にナイター競馬を観戦しながら飲食を楽しむ食事会と東京湾クルージングの『ダブルヘッダー』を企画しましたが、台風の影響でクルージングが中止となり食事会だけの開催となりました。詳細は中西さんの別項記事の通りですが、61名もの記録的参加者を得て大盛況でした。

また、10月1日（月）および9日（火）の二回に分けて麻布十番の更科堀井で例年恒例の新そば会を開催しました。累計36名の参加で、そば尽くしの料理を堪能しました。

グルメ部会長　海沼美智子

目黒稲門会・若手会

大学で過ごす時間はわずか4年+αですが、更に広い世代・広い世界の先輩と共に、人生大学校ともいうべき同窓生の輪に入ってみませんか？その第一歩として、若手会へのお越しをお待ちしております。

参加条件は、平成年度ご卒業の目黒稲門会会員を中心に、もう少し年次が上の方や、ご家族ご友人も歓迎です。初参加の方、あるいは久しぶりすぎて顔を出しにくいと言う方、特に歓迎します。

目黒稲門・若手会幹事　石川智子

ゴルフ部会

10月11日に第21回ゴルフ会を、富士箱根カントリー倶楽部に於いて行いました。富士山から駿河湾、箱根と360度の眺望が楽しめる筈でしたが、生憎の曇り空、そのうえ今回は参加が15人と少なく、少しさびしいコンペとなりました。しかし、初参加が3人となり今後に期待できそうです。結果の方は、女性に有利？なのか、日頃の練習量の違いからか、1位は保井栄子、2位大野幸子、3位大野利幸の各氏、BGは小池早苗の各氏で、ロー・ハンディの上級者が今一つ低位に終わりました。次回は4月頃に予定しますが、多数の方が参加されるように計画します。

ゴルフ部会長　大野利幸

ウォーキング部会

9月「くりはま花の国」からペリー記念館巡り、レトロな列車や渡し舟に乗ったり、ハーブの足湯を浴びながら大合唱して、1万5千歩。

＜冬の開催予定＞

★集合は現地駅、小雨決行

第17回12月11日（火）鎌倉駅西口午後1時集合

＊かえで紅葉で錦色づく古都の寺々巡り

鎌倉駅―海蔵寺―化粧坂切通し―寿福寺―英勝寺―妙本寺

第18回2月12日（火）～13日熱海駅午後1時

＊創部3周年記念1泊、2大梅園・小田原城巡り

2月12日：熱海駅―起雲閣―錦ヶ浦―熱海城―熱海梅園―旅館立花泊（目黒区保養施設・1泊2食付7,350円）―囲碁、麻雀、カラオケの集い

2月13日：午前　小田原城―海蔵寺

午後 曽我梅林（3万本）―城前寺（水仙）

★参加ご希望の方は1月10日迄に桑野へ申込み。

健康の為にウォーキングを！

ウォーキング部会長　桑野祐光

はじめよう！グラウンド・ゴルフ（第2段）

あなたのウエスト何センチ？ウエストが男性85㎝女性95㎝を超えていたら、あなたは立派な「メタボリック症候群」です。大丈夫ですか？ウエストが気になりだした稲門会の皆さん、月2回の研修会＝初心者教室で快い汗をかいて、健康増進！ぜひ気軽に見学に来て、始めてみませんか？また今秋の朗報は、グラウンド・ゴルフが「国」が認める生涯スポーツとなりました。加盟する東京都グラウンド・ゴルフ協会の生涯スポーツとしての活動と実績が認められ、平成19年度「文部科学大臣賞」を受賞しました。全国の愛好者は約150万人！さあ始めましょう！

稲門会の皆様のご参加を心よりお待ちしています。

〈実技研修会＝初心者教室の再度のご案内〉

日時：毎月第2・4水曜日、午前9時～12時。

場所：碑文谷野球場（体育館）

費用：一般区民300円（傷害保険含む）

用具：全て無料貸出し致します。

グラウンド・ゴルフ汗かき人　安藤嘉昭

カラオケ部会

最近目に付いた医者が勧める「健康カラオケ」丸秘テクニック「演歌療法」で若返る・・・本題によるとカラオケ・ルームが新しい医療の場になっていると説かれています。腹の底から声を出す。野球や蹴球競技の観戦など大声を出して応援することによって、開放感・爽快感を味わえると共に、音楽を聴き、声を出して歌う音楽療法的効果があり「健康カラオケ」といえる。

カラオケ～空オケ（空オーケストラ）。伴奏用音楽だけが録音されているテープ・レコード・ディスク。また、その再生のための装置。また、それを伴奏して歌うこと。昭和52年（1977年）頃から急激に普及。・・・日本語大辞典

昭和15～6年頃？から歌のない歌謡曲としてレコードを聴いたことを懐かしく思い出す。

戦時中大声で歌うのは軍事教練と行軍中の軍歌のみ。何れにしても、先ず声を出すこと、次に曲を多く覚えることと思います。

カラオケ部会長　　海口昭治

会員の広場

『絵筆を持って10年』

藤岡長世（昭和22年　法）

私が水彩画を習い始めたのは、第二の人生を終えた10年前の事である。家内や娘から、ゴルフや麻雀も良いけれど独りで楽しめる趣味として絵を始めたらどうかと言われたのがキッカケである。或る日、散歩をしていると二人の男女が自転車で坂道を登ってきた。女性が連れの男性に「私目黒は坂が多いから嫌いなのよ」と話かけているのが耳に入った。なる程、目黒は坂が多いな、権之助坂や、柿木坂など名のある坂が沢山ある。坂の上にその名のいわれを説明した看板が立っている。坂をスケッチしてそのいわれを添え書きして「目黒の坂」なる題名で一冊ものにして見るのも面白いのではないかと考えた。

自分史を上梓して、さて、次に何をしようかと考えていた時でもあり、絵に挑戦することにした。目黒のサークル水耀会を紹介されて入会した。絵筆を持ったのは、中学2年以来60年振りの正に70の手習いであった。

然し始めてみると大いに興味が湧いてきた。今迄は、唯美しい綺麗だと眺めていた樹々の緑も山の緑も皆違う。緑の色がこんなに多かったとは知らなかった。花も綺麗としか見ていなかったのに、どう表現したら良いだろうと見る眼が違ってきた。展覧会などで仲間の作品を見ていると、夫々の性格が現れていて興味深いものがある。旅行好きの私は風景画の作品が多くなり、自宅に飾っているのは、風景画ばかりである。幸いにも娘の主人がアムステルダムに駐在員として赴任したのを機に、そこをベースとして近隣諸国に旅行することが出来た。ライン下りや、ノインシュバンシュタイン城・ベニスのリアルト橋など趣のある風景をものにすることが出来た。スイスのアイガーなどは、方向を変えて何枚かの作品をモノにした。国内でも信州の白馬・上高地・北海道の知床や美瑛の丘など絵になる風景は多い。写真と違って、邪魔なものは切り捨て、もの足らない時はプラスして画面を構成する創造の歓びもある。

だが、何と言っても最大の収穫は、絵を趣味とするだけに繊細で心優しい人達との友人の和が拡がったことである。絵を始めて本当に良かったと思っている今日この頃である。

特別寄稿

― 空からゴンドラが降ってきた ―（続）

中島侑三（昭和31年　政経）

いまでもあの日の空模様を覚えている。

高曇りの空から太陽の光が薄く滲みだしていた。なんとなくなま暖かい陽気だった。東京丸物の株主総会は淡々と進んでいた。西武百貨店渋谷店の次長兼総務部長だった私は、関係者の一人としてこの株主総会に出席していた。経営のつまづきから東京丸物は株式を譲渡し、経営を西武百貨店に委ねることになったのである。その幕引きの株主総会だった。昭和44年4月24日。「中島次長、何かお急ぎのお電話が入っております」係りの社員から渡されたメモには「臼田が電話口で待っています」と書かれていた。いやな予感がした。控え室の電話器をとりあげると、同年代の気のおけない仲間の一人で装飾部門を担当している臼田の切羽つまった声が受話器を通して聞こえた。「侑ちゃん、大事件だ。清掃用のゴンドラが落ちた。人が死んだらしい。すぐ渋谷店にきてくれ」一瞬耳を疑った。「えっ、人が死んだ」全身の血が一時に引く思いだった。体が硬直し受話器をもつ手が小刻みに震えているのが自分でもわかった。会場に戻ると会場の最前列の私の隣席にいた山下取締役総務部長に事情を手短に説明し、二人でタクシーで渋谷に向かった。この時間の長かったこと。だが頭の中にはいろんなことが駆け巡っていた。

ゴンドラの管理については一ヶ月前の点検の指示をだしていたこと、さまざまの紆余曲折を経てやっと出店したのに計画どおり売上を上げられず四苦八苦の渋谷店。ただひとつの救いというか、自分でも運がよかったと思ったのは、たまたま、この日が水曜日で渋谷店が定休日ということであって他の百貨店の課長からゴルフの誘いがあったのを断ったことだった。もしその誘いにのってゴルフにいっていたら、責任者として素早くこの事件に立ち合えたかどうかわからない。苦労性のわりにはどんな危機のなかでもプラス思考を土台にして処理していく私の性格はこの時も稼動していた。

現場にかけつけた私が目にしたのは、歩道に赤く染まった血痕と、ひしゃげたゴンドラだった。

窓ふき用のゴンドラの落下で学童二人が圧死という痛ましい事故だったのである。事務所に入ると休日出勤の社員や出社してきた社員を重苦しい空気がつつんでいた。各担当者から現況、管理状況を聞いたが、取材にきている新聞記者を通じて、この悲惨な状況についてどう説明したらいいのか、的確な判断がつかなかった。殺気立ち管理責任者を追求しようとする記者たちは、私の発言を全神経を耳にして捉えようとしていた。

私の思考は混乱をとおりこして停止というのに近い状態だった。「中島さん、店員はどこにあるんですか」その声を聞いて私は我に帰った。みると日頃から店舗の取材で話し合っている方面担当の記者の顔があり、視線があった。日常の接触から生まれた信頼関係が私の心によみがえった。「そうだ、自分は中島侑三だ」そう思うと同時に「よし、現場の責任者として全責任をとろう」覚悟が決まれば心は落ち着いた。担当者の報告などを基に、現在はどこまで説明したらよいのかを頭の中でまとめ、記者たちの質問に冷静に応えていった。昭和44年4月24日付けの各紙の夕刊は「八階から窓ふきゴンドラ落下」「学童二人が圧死」「どこをあるけばいい」「現場で叫ぶ先生」などの見出しで、歩道を歩いていた小学六年生の列に清掃用ゴンドラが落ちた事件を大きく伝えた。店に泊まった私は一晩中眠れなかった。亡くなった学童と同じ年頃の子供をもつ私にとって、この事件は私の心を深く傷つけていた。翌日から私は警察に出頭し、管理責任を追及された。日頃の点検、故障の有無、それに対する指示。私は全てを順序立てて答えていった。警察の訊問は厳しく微細にわたったが、「この業務の責任者は私です」と態度を変えなかった。「あなたの手落ちはなかなかみつかりませんな」取調べにあたった係官は、業務文書などと私の発言を照合しながらつぶやいた。しかし、警察の訊問にもまして、私の心を重くさせていたのが、亡くなった学童への謝罪とそれをどう償うかであり、さらに遺族が心を閉ざして面会に応じてくれないことであった。連日、警察に朝から夜まで留められ、それが済むと私は遺族の家を尋ねる日が四日ばかり続いた。心身の疲労で足どりも重かったが「責任者としてきっちりとこの事件の始末を付けなければ」という思いが私を支えていた。後から聞くところによると、「中島さんが自殺をした」という噂さえとんでいたという。「自分のサラリーマン生活もこれで終わりになるかもしれない」最後の仕事と思った私は全力でこの事件の処理にあたった。以後、更に2つの企業の大事件を経験した。

「侑ちゃん、君みたいに企業の大きな危機のとき責任者の立場にいる人もめずらしいね」と親友の谷島からつくづくいわれた。彼は西友の専務を最後にセゾンを去り、忠実屋の社長になっていた。「ほんとうに身体を休めたほうがいい」そういわれてあらためて自分の生き方を考えた。とにかく誠心誠意を念頭に、愚直なまでに信念を曲げないで進んできた。こんな私が今日までやってこれたのも多くの人との交流があったからだ。それらの人たちから私は学んだ。誤解もあったし、衝突もときにはあった。それも私の貴重な財産となっている。また企業のリスクマネージメントは責任者が全ての責任をとるという姿勢がなかったら問題は解決しない、ということを実感した。時代も大きくかわりつつある。自分の生き方をあらためて見なおしてみるいい時期かもしれない。私は決心した。「サラリーマン生活と決別しよう」私は辞表を出した。昭和61年のことである。　（終り）

リレー随筆

『石段を登りながら・・・』

田畑　繁（昭和30年　法）

山手通り、目黒警察署の前を少し入ったところに、私の住むマンションに隣接して、中目黒南緑地公園がある。小さな公園だが、左右の樹々の間をなだらかな上りの石段が南西に向かって100段ほど延び、上の道路への通り道ともなっている。私はよくここを散歩する。今は9月の初め、昼から小雨。私はいつも30段ほど登ったところで足を止め、2本の若い桜の木を見つめる。ちょうど4年前、区が公園の樹を間引き伐採したとき、向かい側のマンションとの間にあった風情あるブナの樹まで切ってしまった。私たちはそこに、か細い、背丈ほどの桜の木を2本植えた。心配した冬を越すと2m近くも延び、若葉が出た。8月下旬にはつぼみをつけ、そして、小さく少ないながらも満開の花を咲かせたのである。若い命のたくましさに感動した3年前の春のイメージは、今も鮮明に残っている。

私たちのマンションは全56戸。管理組合の自治活動で運営している。10数年前、長年その地位にあった理事長の業者との癒着事件を機に、組合員（区分所有者）をはじめとする全居住者が決起。管理規定を改正し「理事長をはじめとする役員は居住する組合員から7人を選出、任期を1年、輪番制とする」ことも決めた。居住する全組合員が理事を体験するのだから、全員がマンション業務に精通する。現在、この輪番制も3巡目の中ばにかかっており、理事長以下各理事が各々個人の仕事と両立させながら、入退去手続き、各種の工事、ゴミ処理の扱い、駐車駐輪場の査察をはじめ数々の管理業務をこなしている。2年前から老齢化に伴う業務の停滞を考慮し、補助者として管理員を置いている。

当マンションは築後40年。分譲住宅だが敷地は借用地である。ここ数年最大の課題は、今年7月に満了する土地賃貸借契約の更新問題であった。近隣のマンションはすべてここよりも新しく、前例が見当たらない。役員や有志たちが委員会を立ち上げ、4年ほど前から法規、判例、土地の価格など更新に関する資料の収集に奔走した。更新料については「1戸あたり数十万円」から「必要なし」まで、様々な情報がとび交った。昨年9月、賃貸人の代理人から、更新料について協議したい旨、申し入れがあった。委員たちは都や区の借地権関連組織、弁護士などにも相談を重ねた。私たちが困惑したのは、集めた情報にかなりの違いや差があり、組合の採るべき方針が決定出来ないことだった。相談した組織の中に「①賃貸借契約は自動的に更新される。②更新料は両者の合意がなければ支払う必要はない」と指導してくれたA・NPO法人があった。私たちはこの法人に焦点をしぼって会合を重ね、当マンションは前記の①②の条件を満たしていることが明らかになった。委員会はA法人に代理人としての協議を委嘱。12月、内容証明による文書を発送した。以後、時計は止まり、不安な日々が続く・・。しかし、そのまま遂に今年7月が経過―。契約の自動更新決定。更新料の支払いなし！　私たちは満面の笑みで、互いの健闘をたたえ合った。

公園の石段を半分以上登り平地に着く。雨は小降りになっている。子犬を連れた婦人がそばを通り抜けていった。私がこのマンションに引っ越してきたのは1980年、47歳の時である。この時期は私の仕事の面でも大きな転換期であった。NHK入局数年後からずっと『連続テレビ小説「娘と私」、「あしたの風」』『連続ドラマ「事件記者」』などのドラマ作りに励んできたが、明るさ、大衆性、ストーリー性をモットーとするテレビドラマに違和感を抱くようになっていた。「人間心理の断面の切り口を描くのがドラマではないのか」との思いが次第に高じていた。07・8・1の夕刊に、イタリアの映画監督ミケランジェロ・アントニオーニ死去の記事を目にした。私に決定的なショックを与えたのが、実は、彼の映画「情事」「夜」そして「太陽はひとりぼっち」だったのである。これらの映画は“愛の不毛”、“人間の孤独”を鋭くえぐった作品と評された。彼は因果関係の明らかな物語は描かなかった。私がドラマ作りに抱いてきた信念も確固たるものになっていった・・。私の考えを取り入れた単発ドラマを2本演出したあと、一念発起、外国番組の日本語版制作部に転出した。「ワールド・テレビスペシャル」や「海外ドキュメンタリー」などを担当し、海外の歴史、政治、文化、人々の営みに触れるにつれ、世界の時空の広さ、大きさを知った。この時代、特に印象に残っている作品が2つある。1つは、のち映画館でも公開されたが、米・アーカイブプロ制作の「アトミック・カフェ」。1940～50年代、アメリカ人が核をどうとらえていたかを描いたものだが、日本人から見て、彼らの楽観的な意識と無知さが露呈された興味ある作品であった。当初「NHKスペシャル」で放送の予定だったが上層部からクレームがつき、「海外ドキュメンタリー」（教育）の枠ならば可能といわれた。私はかなり抵抗したが、放送中止になるよりはと従わざるを得なかった。もう1つは、その直後にこの枠で放送した「メニューヒンが語る人間と音楽」（8回シリーズ）である。世界の音楽の歴史をメニューヒンの解説によって描いた作品で、大きな反響があった。そして、この作品の難解で専門語の多い英文を適確な日本語に翻訳してくださったのが、今は当稲門会会員の岩佐幸子さん（2008年目黒稲門会新年会講演講師―編集委員会注釈）だったのである。会報34号に掲載された岩佐さんの特別寄稿を拝見していて気づいた次第で、懐かしさと感謝の気持ちがこみ上げてきた。早速、便りを出し合って、当時を語り合った。

心理を探求するミクロ、海外のドキュメンタリーがかかえるマクロ、この2つの世界に接することが出来て得た体験が、私の心を支える活力の源となっていると思う・・。

石段を登りきり、道路に出る。雨はすっかりあがっていた。残暑の西日がまぶしい―。

（2007年9月上旬・記）

会員の広場

『ナイター競馬観戦食事会』

中西千可子（昭和51年　文）

9月5日（水）、いよいよ楽しみにしていたグルメ部会主催の『ナイター競馬観戦食事会と東京湾クルージング』の当日がやって参りました。しかし、我々人間にはとても太刀打ち出来ない大障害が近づいていたのです。・・・・そうです！大型の台風9号がまっしぐらに関東へ接近しつつありました！

当初の予想よりも遅いスピードで進む台風に、当日の開催は可能というGOサインが出ました。しかし、ぎりぎりの間際になって、東京湾の波浪状況が思わしくなく、東京湾クルージングは中止となりました。

今回の『ダブルヘッダー』の後半部分、ナイター競馬観戦食事会は予定通りの開催となりました。にわかに強い雨が降ったりやんだりの天気の中、大井競馬場へ続々と参加者がご到着です。皆様はまず、入り口で¥100の入場券を購入して入場しなければいけません。そして一歩足を踏み入れれば、そこは青色ダイオードがきらきらと輝く木々に彩られた別世界が広がっておりました。

4階にあるダイヤモンドターンは全面巨大な窓ガラスを通してレース場を見渡せるようになっています。総勢61名にものぼる参加者は目を輝かせて馬券を購入、あるいはビュッフェの食事に舌鼓です。ビュッフェはステーキやエビなどを目の前で焼いていただけるコーナーもあって飲み物も充実して、実に贅沢な品揃えです。（デザートもたくさん）

初めての馬券購入はあまりに複雑でちんぷんかんぷんでしたが、先輩たちのご指導によりなんとか3レースは買うことができて結局プラス¥1,200ほどになりました。競馬に行く方たちが何故に皆さん競馬新聞を持っているのか、何故に赤鉛筆が必需品なのか、その謎が解明された夜でもありました。解らないながらも、新聞の予想で◎とか○とか△とかのマークを気にしつつ最後は好きな名前を選んだ私は邪道ですが・・・楽しかったです、本当に。

松岡先輩のご教授も楽しくて、最後には特別に赤ワインも一本づつおみやげにいただいて、家路をたどりました。機会があれば是非馬を間近で見たいと思いました。気候が良い頃にもう一度足を向けてみたい場所となりました。

『稲門祭裏方日記』

小杉　哲（昭和41年　理工）

10月20日（土）、稲門祭当日である。昨年同様土川さん（昭和41年　政経）と発送用の紙袋や接着テープ等を調達のため高田馬場駅前の100円ショップで待ち合わせた。本日発表となる福引の賞品（当選すればの話だが）を引き取り、それを当選者の自宅に福引券副賞（これは必ずある）と一緒に送る任務をおびていたからである。目黒稲門会は今回福引抽選券を250枚（50万円）販売した。毎年のことながら、吉田事務局長は発送用の宅配便宛先用紙に全員分の住所等を事前に記入し、各人の抽選券番号一覧も準備され、その努力には頭が下がった。

まず、校友会事務室から大きなダンボールに入った副賞を引き取り、宅配便宛先を貼り付けた紙袋に各人に該当する副賞を入れ込んだ。この作業からは小生と土川さん二人ではとても手に負えず、7名もの先輩諸氏に助けて頂いた。やっとこの作業が終わりかけたときには抽選会の時間（午後3時）が迫っていた。

抽選番号一覧表をもとに一人当たり約50枚の抽選券を受け持ち、大隈講堂前で抽選発表のアナウンスを聞いた。数年前には目黒稲門会会員にトップ賞の乗用車が当たったそうだが、今回は乗用車4台や旅行券等の高額賞品は当たらず,参加賞的なものだけだった。先輩諸氏には賞品の現品引取、宅配便袋への封入、さらには宅配便業者への引渡しまでお願いしてしまった。

段取りの悪さが原因で先輩諸氏には大学構内を何回も行き来させてしまった．結果的には事なきを得たが、ここに書きづらいようなハプニングも幾つかあった。（副賞所在、宅配便）それらは別途ご披露すると共に、来年の糧としたい。

全ての作業が終了後会長、幹事長、事務局長初め13名で昨年と同じ高田馬場牧場で喉を潤した。

ＨＰ便り

目黒稲門会ホームページ（HP）にはこの会報も掲載されています。但し、HPは誰でも見ることができますので個人情報保護の観点から電話番号、卒年等は基本的にマスクしています。　（小杉　記）

編集後記

今会報では、目黒稲門会も母校早稲田大学と創立125周年の慶びを共にしていることを発信する記事として、当会会長、相談役、若手会員のお三方に当会を代表して『母校の創立125周年を祝う』の寄稿を御願い致しました。

また、お読み頂くと会報が会員の新たな和を作るとともに、思い掛けず途切れかけた人の和を繋ぐ機会を作ったことも紹介されています。

125周年の歴史の中で、目黒稲門会も誕生し、歴史を重ね、所属する部会も一里塚を刻んでいる様が部会の寄稿にも現れていると思います。　（服部　記）